

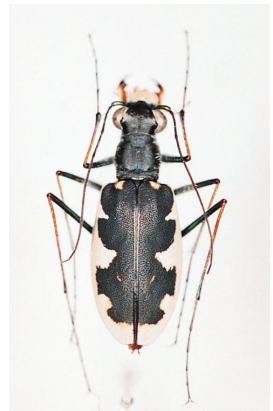
02 生きものと環境

これまでみてきましたように、大阪府には地域によって特徴的な生きものがすんでいます。ここでは、池や林、湿地などの「環境」と、そこにすむ生きものとの関係や特徴について、もう少し詳しくみてみましょう。

生きものは種類やグループごとに、それぞれ限られた環境に依存して生活しています。例えば、トンボ類は池など水のある場所を中心に活動しています。クワガタムシやカブトムシは、クヌギ林のような落葉広葉樹林らくようこうようじゆりんでみつかります。それは、彼らの生活様式、つまりエサのある場所や卵を産んだり育ったりする場所と関係があるのです。

もっと特別な例として、限られた湿地にだけすむハッチョウトンボやサギソウ、河口のヨシ原にしかすまないヒヌマイトトンボなどを考えてみましょう。これらの生きものは、大阪府レッドデータブックのなかで絶滅のおそれがある種としてあげられています。その原因は、彼らの生活場所である“湿地”や“河口のヨシ原”といった環境そのものが無くなりつつあるからです。限られた環境にしかすめない生きものにとって、その環境が無くなったり悪化すると、絶滅が心配されるのは当然の結果といえるでしょう。

大阪府レッドデータブックで絶滅種ぜつめつしゆとしてあげられたカワラハンミョウやヨドシロヘリハンミョウ(ともにハンミョウの仲間)は、それらがすんでいた大きな砂浜や河口干潟ひがたの環境が無くなったり、また大幅に減ってしまったうえ、環境汚染の影響なども加わって、大阪府からは絶滅してしまった種類なのです。



9. カワラハンミョウ

もうひとつ、生きものと環境の関係を知らうえで、最近よく話題になっている「^{さとやま}里山」について考えてみましょう。

^{さとやま}里山とは村や町の近くにあつて、昔から薪や柴をとったり、炭^{たきぎ}焼きをしたり、また落ち葉や枝を刈って農業に利用したり、山菜やキノコをとったりして、いろいろな形で人々がくり返し利用してきた山林のことをいいます。しかしここでは、もう少し意味を広げて、水田や畑、小川やため池^{ふく}までも含んだ農村地域をイメージしてみましょう。

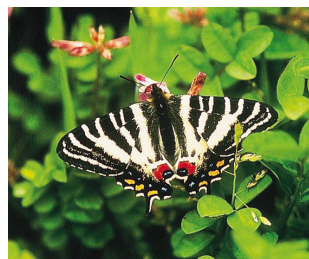
このような場所にはたくさんの異なった環境が入り組んでいて、それぞれの環境にいろいろな生きものがすむことで、^{さとやま}里山全体としては大変豊かな生きものの世界がくり広げられてきました。しかし、人間の生活様式の変化や農業の近代化によって、^{さとやま}里山は放置されて荒れてしまったり、逆に大きな土木工事によって整備されてしまったりして、生きものにとってはすみづらい環境になってきました。



10. ^{さとやま}里山の風景（^{みくさやま}三草山）



11. 代表的な^{さとやま}里山の鳥
オオタカ



12. ^{さとやま}里山に多いギフチョウ

それでは、大阪府でみられる代表的な環境を、林、川、池、湿地、草地、^{ひがた}干潟に分け、さらに身近な自然として都市公園や社寺林などの市街地のみどりの環境を加えて、それぞれの環境にすむ特徴的な生きものについてみていきましょう。